

茨城大学院理工学研究科都市システム工学専攻 令和6年度後期 専攻教育点検報告書

令和7年4月16日

報告者 都市システム工学専攻 専攻長 藤田 昌史

1. 実施日時と場所

令和7年3月24日（月）10:45～11:35 Teams 会議

2. 出席者

常勤教員：小林薫，横木裕宗，原田隆郎，桑原祐史，信岡尚道，熊澤貴之，平田輝満，車谷麻緒，肥田剛典，一ノ瀬彩，吉田友紀子，稲用隆一，大村高広，海野遥香，遠藤克彦，久野靖広（クロアポ），藤田昌史，増永英治（全常勤教員19名のうちの18名が出席）

（常勤教員のうちの欠席者：辻村壮平）

非常勤教員：出席なし

技術職員，事務職員：出席なし

3. 添付資料

資料1-1 2024年度（後期）都市システム工学専攻・教育改善委員会 議事録

資料1-2 都市システム工学科・専攻 FD 研修会議事録

資料2 2024年度（後期）学科・専攻教育改善委員会およびFD研修会 議事次第

資料3 令和6年度後期都市システム工学専攻 授業点検改善表※応用水理学特論IIのみ添付なし

4. 授業点検の実際

4. 1 アンケート実施状況

点検評価に先立って実施した，授業アンケートの回収状況は以下のとおり。

常勤教員担当科目分： 16科目／常勤教員担当科目総数16

非常勤教員担当科目分： 0科目／非常勤教員担当科目総数0

※社会基盤デザイン特別演習II・研究II，建築デザイン特別演習II・研究IIは授業アンケートに馴染まないため，計算式から除外した。

4. 2 点検した科目

国土空間情報特論，交通工学特論，維持管理工学特論（隔週），建築構造デザイン学特論，建築史・意匠特論II，建築設備・地域エネルギー特論，沿岸環境形成工学特論，応用水理学特論II，地球・海洋環境保全科学特論，建築環境デザイン演習，建築都市デザインスタジオIII，建築実務実習，建築都市デザインスタジオIV，社会基盤デザイン特別演習II・研究II，建築デザイン特別演習II・研究II，都市システム工学専攻学外実習，の16科目。

4. 3 具体的な点検方法

後期に開講した 16 科目中 16 科目について、以下の方法で点検を実施した。各科目の具体的な点検結果は、資料 1-1 の議事録における「各科目の点検と評価」を参照のこと。

- ・ 2～4 科目程度のグループ（資料 2 を参照）ごとに、各授業担当の教員が担当科目の授業点検改善表（資料 3）等の資料に基づいて、特に前年度の点検評価で出された各科目の課題・問題に対する対応実績について説明し、それに対する参加教員全員からの質疑・コメントを受ける形で実施した。
- ・ 随時、提出済みの電子データや、キャンパススクエアを参加者が各自で確認し、それに関しても必要に応じ議論した。
- ・ TA を利用している授業は、TA 利用の実際やその効果について授業資料にまとめている。
- ・ 2024 年度（後期分）教員間ネットワーク活動報告を確認し、各分野で大きな問題や改善点などがなかったことを確認した。
- ・ 各科目間の成績評価の分布状況を『成績分布表』を用いて確認した。

4. 4 （専攻の点検報告書のみ）特別実験、特別演習等の実施状況など

社会基盤デザイン特別演習Ⅱ，建築デザイン特別演習Ⅱ，社会基盤デザイン特別研究Ⅱ，建築デザイン特別研究Ⅱ，の 4 科目については、「①実施内容と状況」、「②実施の証拠と保存状況の確認」、「③成績評価の方法」を所定の書式にまとめた報告書を点検し、「④学生からの報告と指導への要望」を確認した。

内容については 資料 3 授業点検改善表集 に収録のとおりである

5. 点検評価の結果

5. 1 昨年度の点検評価で出された改善策のフォローアップ

昨年度の改善すべき問題点は、点検を行った科目において改善されていたことが確認された。

5. 2 今回の授業方法で優れている点

- ・ 「国土空間情報特論」では、地理空間情報を用いた分析を入れたことで、興味を持つ学生が増えた。
- ・ 「建築構造デザイン特論」では、構造設計だけでなく、実際の建物の写真などを多用し、学生の興味を引く授業内容となるよう心掛けた。また、建物の図面を見ながらその建物を実際に見て回るツアーも実施しており、それが好評であった。
- ・ 「建築都市デザインスタジオⅢ（熊澤）」では、授業の工夫点として、授業の成果物を日本建築学会関東支部主催の設計競技に出品するように指導している。本年

度は熊谷市の地域活性化に向けた建築の提案を題材に、授業を行った。敷地調査の際には教員が同行し、学生の安全には十分に配慮して実施している。対象地が遠方のため、担当教員に負荷が掛かるが、アンケートの結果を見ると支持されているようであるため、次年度もこのスタイルで実施する。尚、日本建築学会主催の設計競技の結果では、全作品（4作品）が入選以上を受賞した。

- ・ 「建築都市デザインスタジオⅣ」では、今年度初めての授業である。地域の実務的な課題に取り組むデザインスタジオとするべく関係協力先へ打診調整して課題を設定し実施した。講評会では、他大学の建築家教員や地域の住民・市議に参加してもらった。グループワークとし、成績評価にはグループへの貢献度も一部取り入れた。アンケート結果は良好であり、興味深く意欲的に取り組んだことが確認できた。
- ・
- ・

5. 3 今回の授業方法で改善すべき点

- ・ 「交通工学特論」では、演習課題を行うプログラミング環境の構築が難しいとの意見があったため、次年度は講義内でプログラミング環境の構築と一部演習を行う予定である。
- ・ 「維持管理工学特論」では、本年度は時間割の調整ミスで開講直前に曜日・講時を変更して実施したところ、受講者は6名であった。
- ・ 「建築史・意匠特論Ⅱ」では、履修生は当初10名いたが、学会発表や就職活動（今年度は例年より早期に選考が進んだこと）により欠席が続き、5名が欠席超過となった。最終発表会に参加したのは5名は程度の差はあるものの各自良いレポートをまとめてくれた。欠席超過の5名は来年度再履修する旨の連絡が来ている。アンケート結果から授業内容自体は高評価なため、1単位科目で授業回数も少ないので制限も多いが、次年度以降スケジュール調整に関する工夫を検討したい。
- ・ 「建築設備・地域エネルギー特論」では、受講生3名のため、最終発表会は3人を1グループとして報告会を実施した。就活時期に授業があることから、出席を前提とし授業スタイルとの相性が悪い。

6. 教育改善活動

会議中に抽出された問題点について、その改善方法を議論したところ、以下のような意見があった。

- ・ 就活による欠席が目立つとの声が挙がったが、2/3以上の出席は変わらず求める方針と

なった。

7. 報告書の開示

この報告書と同じ内容の書類を Teams 内に設置した学科 FD チャンネルに保管し、学科の全教員が自由に閲覧できるようにした。

8. 『産学連携カリキュラム改良委員会』を受けての教育改善活動について

2024 年 12 月 18 日に産学連携カリキュラム改良委員会を当学科で実施した。

- ・ 今年度の産学連携カリキュラム改良委員会でも学外有識者 2 名をお招きし、国や民間建設業における建設 DX の取り組みやその現状についてお聞きするとともに、当学科で検討中の建設 DX・データサイエンス教育について意見を伺い、カリキュラム検討の参考とした。
- ・ 昨年度に続き「学科のカリキュラム改定」について外部委員に説明し、意見交換を行った。学科のカリキュラム改訂のポイントとして、データサイエンス系科目の強化を行うことや、建設・インフラ・都市 DX 関連の授業の導入・再編を目指すことが確認された。
- ・ 引き続き検討する課題として、定量化されたデータを用いた討論に基づく総合化・統合化を意識した演習主体の授業の実現や、新たな技術開発の基礎（新たなリテラシー）の学習が挙げられた。

9. その他

特になし。